復活の希望

M⑦　藤原康弘

赤川先生に初めてお目にかかったのは､先生がまだ 30 才ぐらいの生気に満ち溢れておられた頃であった。

先生の指導のもと､「ボイラーの自然循環に関する研究」をすることになったが、実験装置などなく、先生から「君たちが作るんだ」と言われ、自分たちで製作した。タンク、ガラス管など大きな部品は先生がどこかで調達して下さり、私たちはガス管のねじ切りをしたり、溶接作業をしたり、すべて人力で相当ハードな作業であった。高さ 4mほどのプロトタイプの装置を作った。

蒸発管に見立てたガラス管に、下から空気を入れ模擬的に蒸発の状況を作り観察した。空気の量に応じて大きな泡、小さな泡などが上昇して行く様は非常に綺麗であった。ある時、欲を出し、水の温度を少し上げて、蒸気の発生状況の観察実験を試みた。何しろ自家製なので加圧することはできない。タンク内を減圧すれば沸点が下がり蒸発管に蒸気が発生するだろうと考え、真空ポンプで上のタンクを減圧したが、蒸発管に蒸気が発生せず、上水タンクの表面だけが沸騰し真空ポンプを壊してしまった。失敗。先生は苦笑い。

わたしたちの研究が先生の研究にどれほど役立ったのか分からなかったが、先生が還暦の記念講演の中で、私たちの実験は初期段階のものであり、その重要な位置づけを話してくださり、少しは役に立ったのだと安堵し、また嬉しかったことを覚えている。

それ以来お目にかかっていなかったが、体調を崩されたことをお聞きし、治療の入所場所も確認していたが、時を逸してしまい、残念で堪らない。

わたしは聖書を研究しているが、聖書には「人は死んでも、将来この地上に復活するという希望がある」と書かれている。赤川先生も健康な体で復活される。その時、語らいたい。それまで、どうかしばらく静かにお眠りください。暫くの間、さようなら。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 28 年（2016 年）3 月 6 日　赤川先生－7